

## 第2章 障害のある人等を取り巻く現状



## 第2章 障害のある人等を取り巻く現状

### 1 町の概況

#### (1) 町の概況

小川町は、埼玉県のほぼ中央の比企郡に位置し、東西約11km、南北は約10km、面積は60.36km<sup>2</sup>で、南はときがわ町、東は嵐山町、西は秩父郡東秩父村、北は大里郡寄居町と接しています。

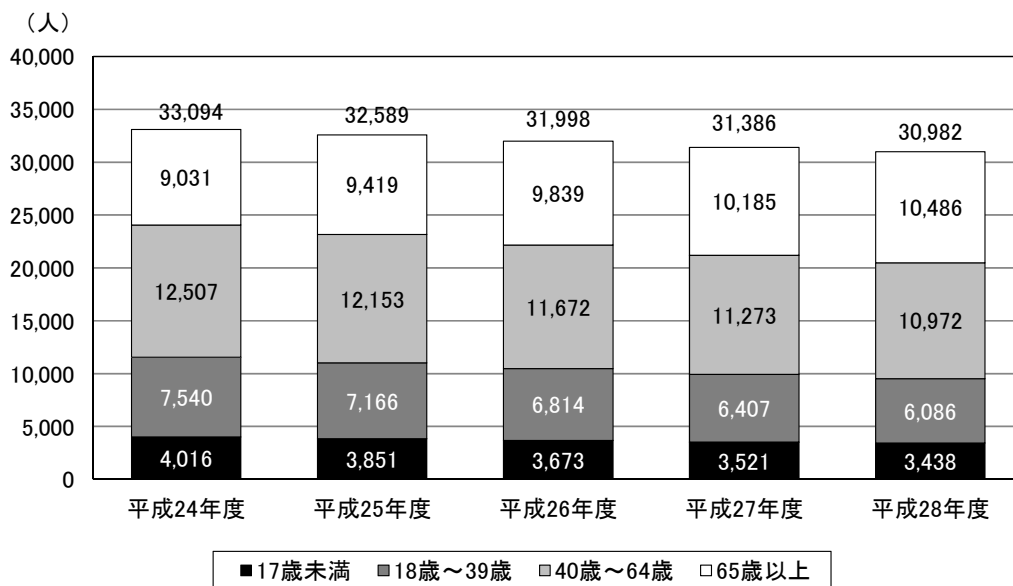
交通条件は、東武東上線、JR八高線、関越自動車道嵐山小川インターチェンジ、国道254号、県道などによって周辺都市と結ばれています。

#### (2) 総人口の推移

総人口は、年々減少傾向にあり、平成28年度末では30,982人となっています。

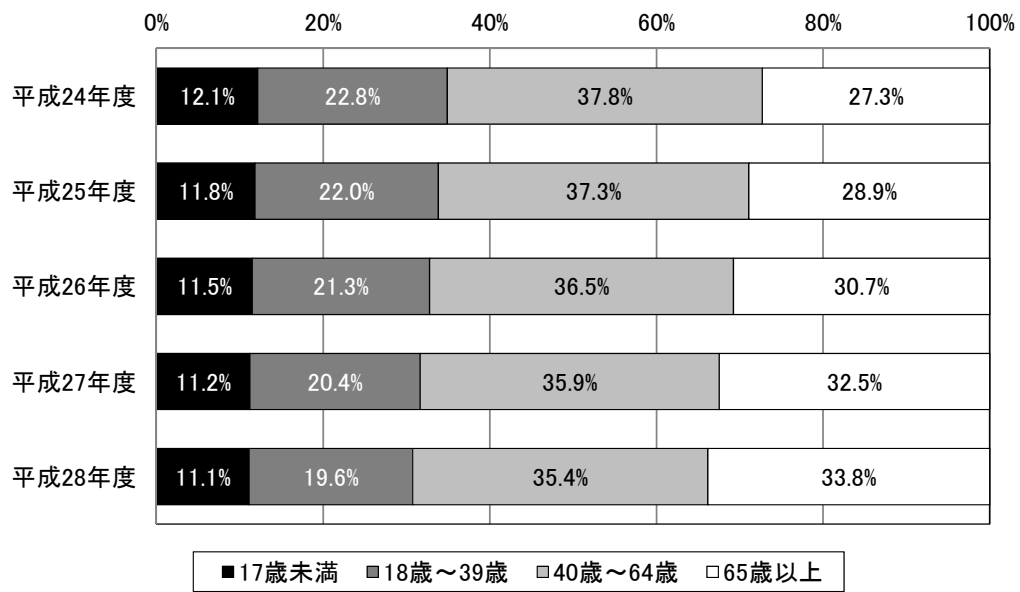
年齢別の構成をみると、64歳以下の人口は減少しているものの、65歳以上の高齢者の人口は増加しています。平成28年度末における高齢者が占める割合は、33.8%となっています。

#### ■ 総人口の推移



資料：住民基本台帳人口（各年度3月31日現在）

■ 年齢別人口割合の推移



資料：住民基本台帳人口（各年度3月31日現在）



キャンディ 利用者様



キャンディ 利用者様

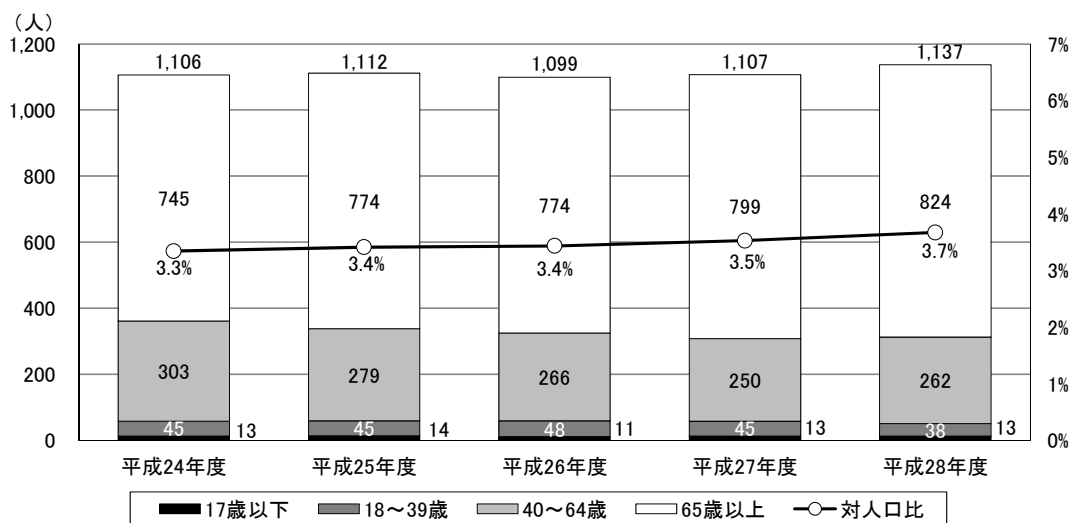
## 2 手帳所持者数など障害のある人の状況

### (1) 身体障害者の状況

身体障害者手帳所持者数の推移をみると、平成24年度以降増減を繰り返していましたが、平成26年度以降は微増傾向となっています。また、総人口に占める割合も同様の傾向となっています。年齢別にみると、65歳以上において増加傾向がみられます。

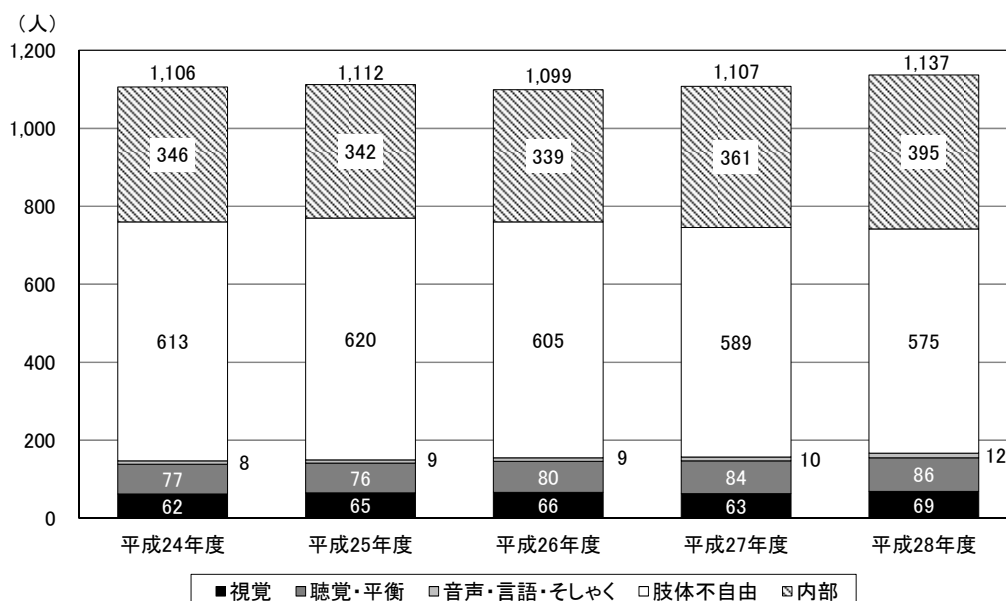
障害の種類別にみると、各年度ともに肢体不自由や内部障害で手帳所持者数が多くなっています。

#### ■ 身体障害者手帳所持者数の推移（年齢区分別）



資料：各年度3月31日現在

#### ■ 身体障害者手帳所持者数の推移（障害の種類別）



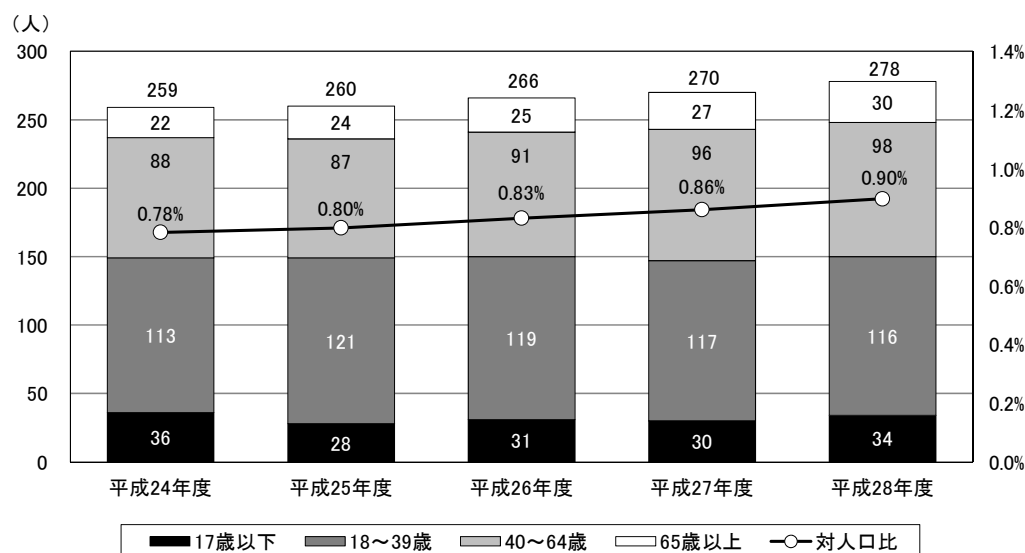
資料：各年度3月31日現在

## (2) 知的障害者の状況

療育手帳所持者数の推移をみると、年々やや増加傾向で推移しており、総人口に占める割合も同様に増加傾向となっています。

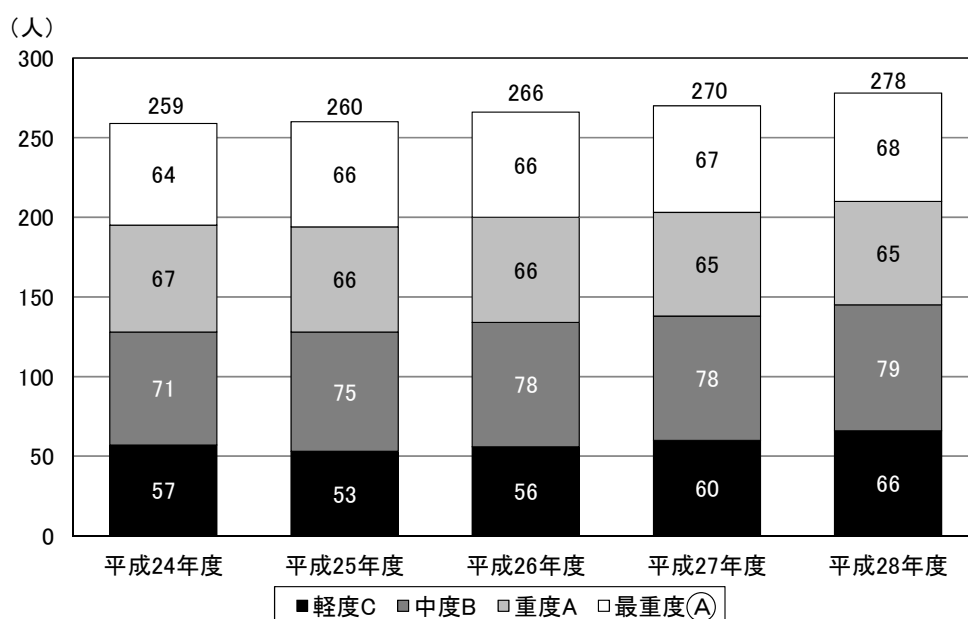
障害の程度別にみると、中度Bが多くなっています。

### ■ 療育手帳所持者数の推移（年齢区分別）



資料：各年度3月31日現在

### ■ 療育手帳所持者数の推移（障害の程度別）

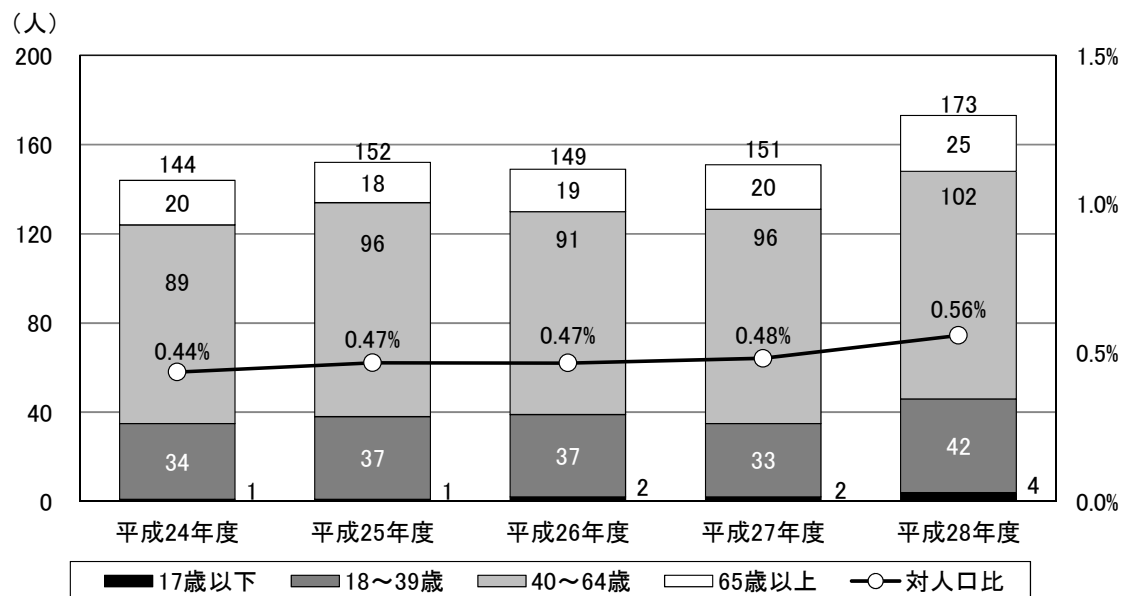


資料：各年度3月31日現在

### (3) 精神障害者（発達障害及び高次脳機能障害を含む）等の状況

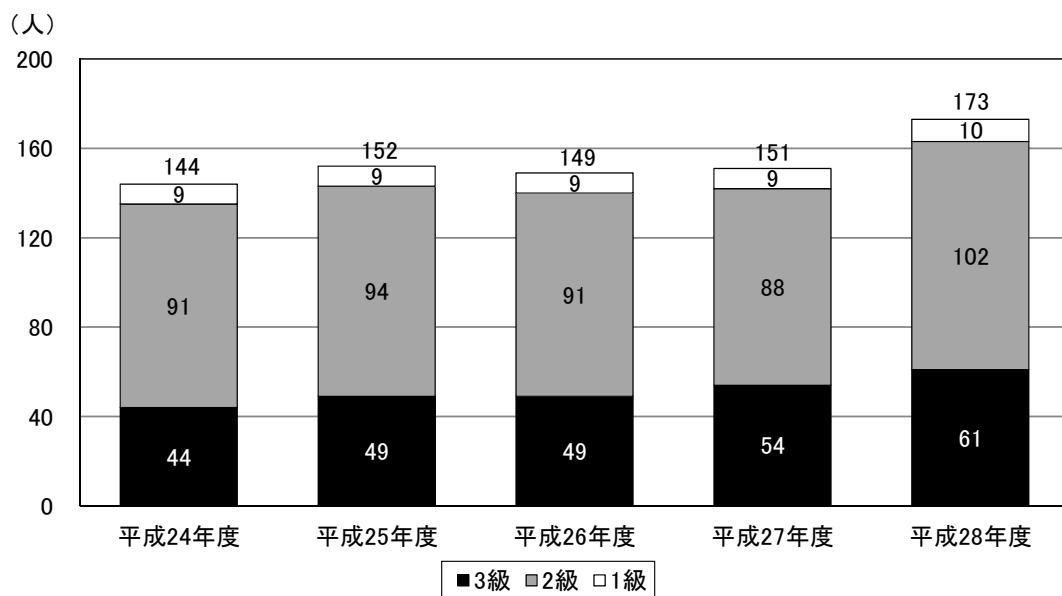
精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移をみると増加傾向となっています。年齢別にみると40～64歳の手帳所持者数が多くなっています。程度別にみると2級の手帳所持者数が多くなっています。

#### ■ 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移（年齢区分別）



資料：各年度3月31日現在

#### ■ 精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移（障害の程度別）



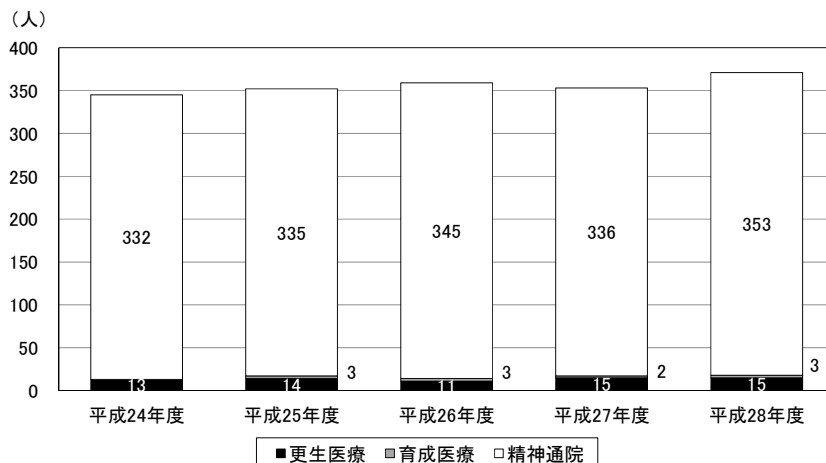
資料：各年度3月31日現在

#### (4) 自立支援医療費受給者の状況

自立支援医療費受給者の推移をみると、「精神通院医療」の受給者が多く、平成27年度では減少しましたが、平成28年度では再び増加傾向になっています。

また、「更生医療」「育成医療」の受給者は、大きな変動は見られません。

##### ■ 自立支援医療受給者数



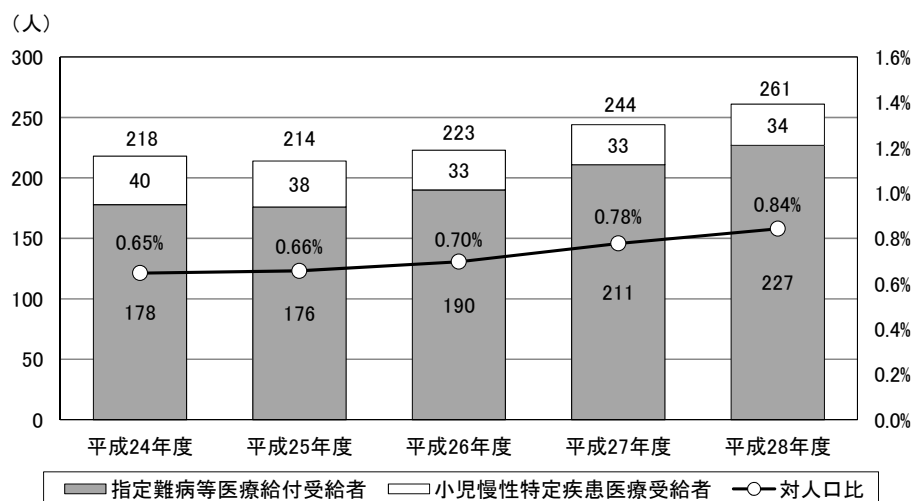
資料：各年度3月31日現在

#### (5) 指定難病患者等の状況

難病患者に対する医療費の給付制度の受給者数については年々増加傾向にあります。対象となる疾病は平成27年1月1日から制度が変わったことに伴い110疾病と拡大し、その後も追加され、平成29年4月1日時点では330疾病が指定難病に指定されています。

小児慢性特定疾患医療受給者数は、近年では横ばいで推移しています。

##### ■ 指定難病等医療給付受給者、小児慢性特定疾患医療受給者数の推移



資料：各年度3月31日現在



### 3 障害者計画策定のための調査結果の概要

#### (1) 調査の目的

本調査は、障害者の生活実態や要望・意見等を把握するとともに、町民の福祉意識等の実態を把握し、「小川町第4次障害者計画・第5期障害福祉計画・第1期障害児福祉計画」を策定するための基礎資料を得ることを目的としました。

#### (2) 調査実施と対象

調査は、無作為抽出による一般住民調査と、手帳所持者による調査を、平成28年12月に実施しました。

調査の対象者については、以下のとおりです。

#### ■調査対象と発送数・回収数

調査名	調査方法	対象者数	回収数	有効回収数	有効回収率
一般	郵送配布・回収	1,000	605	605	60.5%
障害者手帳所持者		1,464	973	972	66.4%

#### ■報告書を見る際の注意事項

- ・調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、少数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点第1位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ・複数回答形式の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率が100%を超えることがあります。
- ・選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いる場合があります。
- ・クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている場合もあります。
- ・自由意見については、原則そのままの回答を掲載していますが、一部個人情報に係る部分等については削除しています。

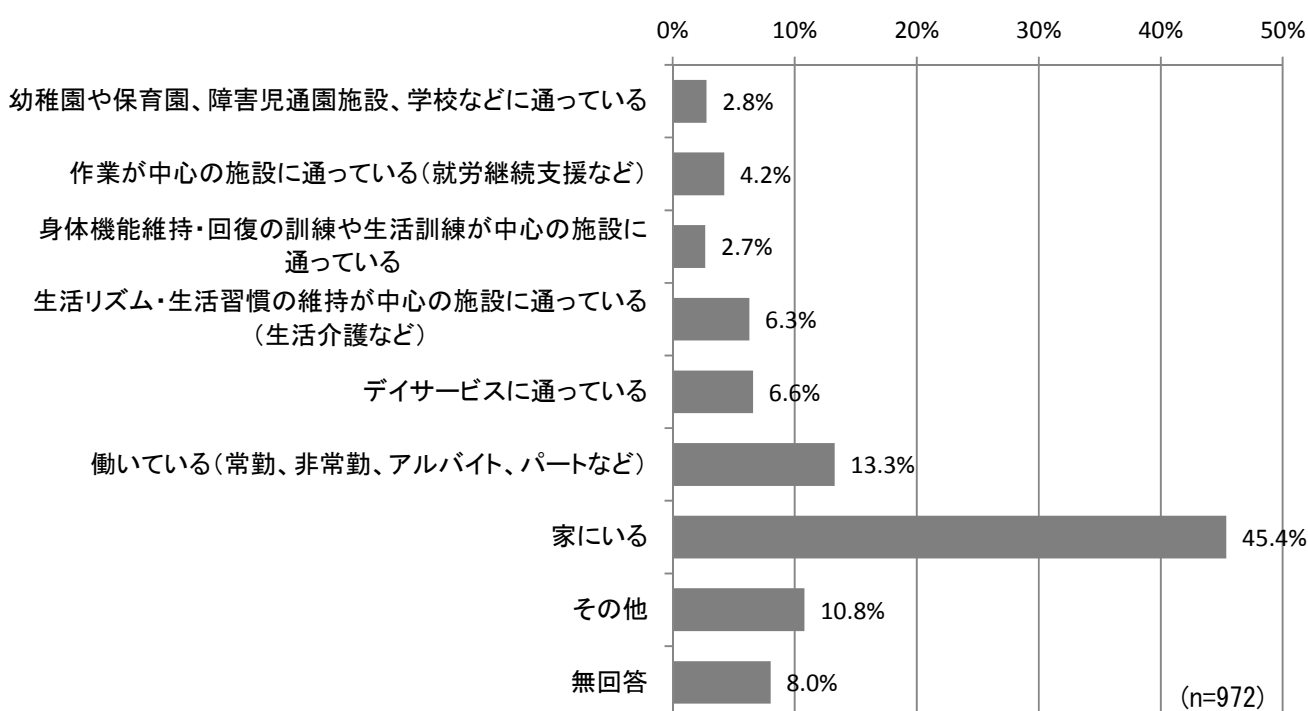
### (3) 調査結果の概要

#### ①障害者手帳所持者

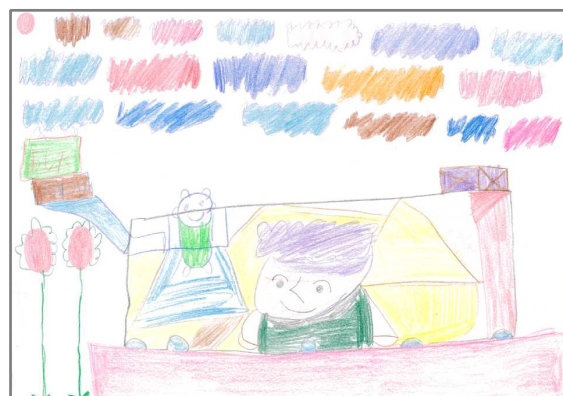
##### [普段の生活]

平日の昼間の過ごし方については、「家にいる」の割合が高くなっています。年代別に見ると、年代が上がるに連れて「家にいる」の割合が多くなり、40歳から64歳までで約38%、65歳以上で57%となります。その他では「働いている（常勤、非常勤、アルバイト、パートなど）」、「デイサービスに通っている」や「生活リズム・生活習慣の維持が中心の施設（生活介護など）」の割合が比較的高くなっています。

#### ■平日の過ごし方について



「わたしのうち」けやき 利用者様



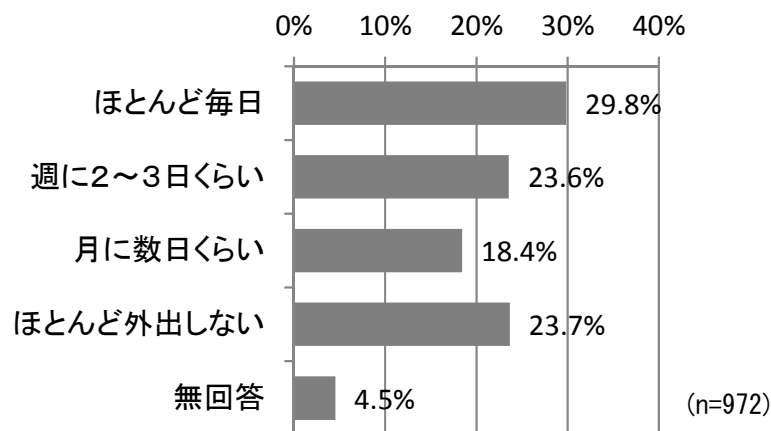
けやき 利用者様

## [外出]

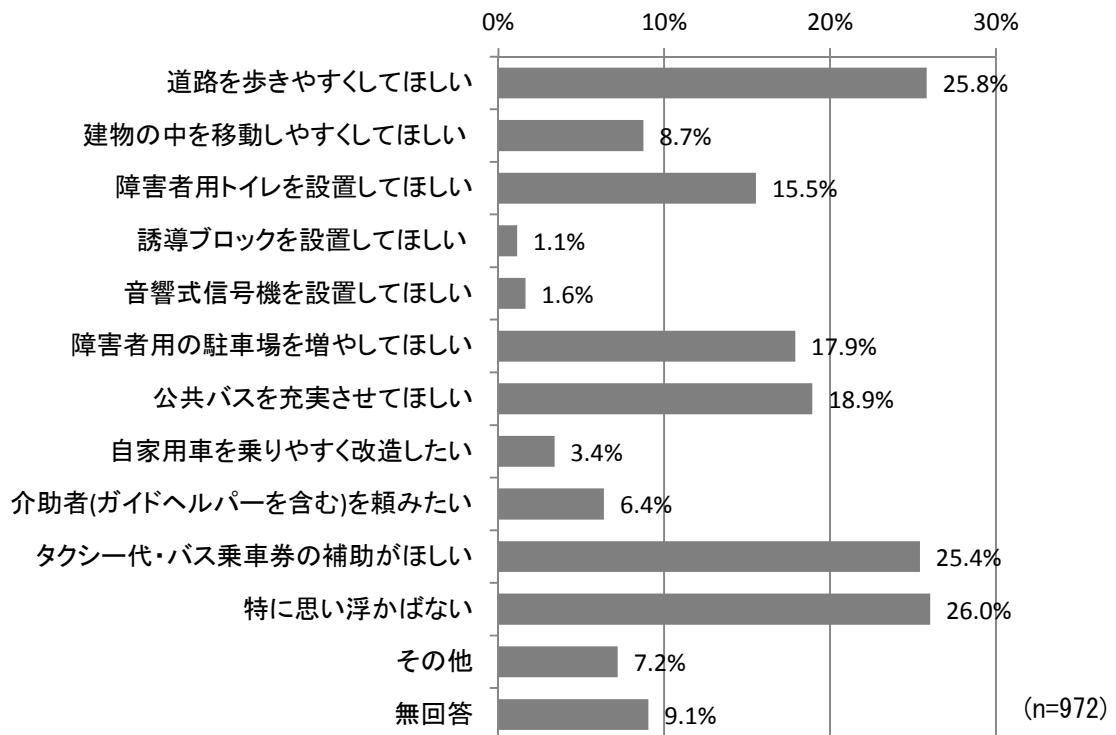
外出の状況については、「ほとんど毎日」が約30%と最も多く、次いで「ほとんど外出しない」、「週に2～3日くらい」となっています。また、手帳別では精神障害者保健福祉手帳所持者、障害の種類別では視覚障害者及び音声・言語機能障害、そしゃく機能障害者において「ほとんど外出しない」の割合が高くなっています。これらの障害者は、今後の外出機会について、今より「もっと増やしたい」の割合も高くなっており、外出におけるより一層の支援が望まれます。

外出するうえでのニーズについては、「道路を歩きやすくしてほしい」、「タクシー代・バス乗車券の補助がほしい」が他の項目と比べて割合が高くなっています。

### ■外出の状況について



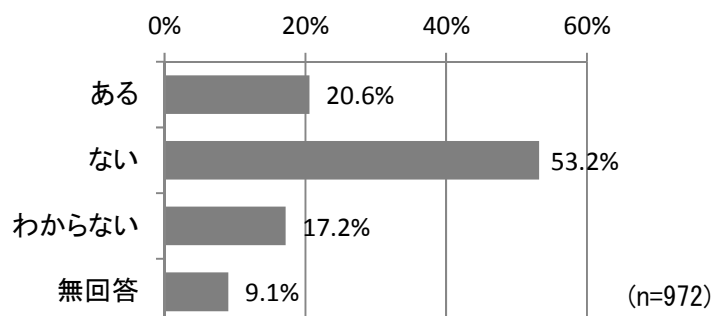
### ■外出するうえで、よくなると良いと思うものについて



### [差別・偏見]

差別や偏見については、感じたことが「ある」が回答の約 20%であったものの、年代別に見ると、年代が若くなるに連れて、「ある」の割合が高くなっています。また、手帳別に見ると、療育手帳所持者の「ある」の割合が比較的高くなっています。

#### ■差別や偏見などを感じることにについて

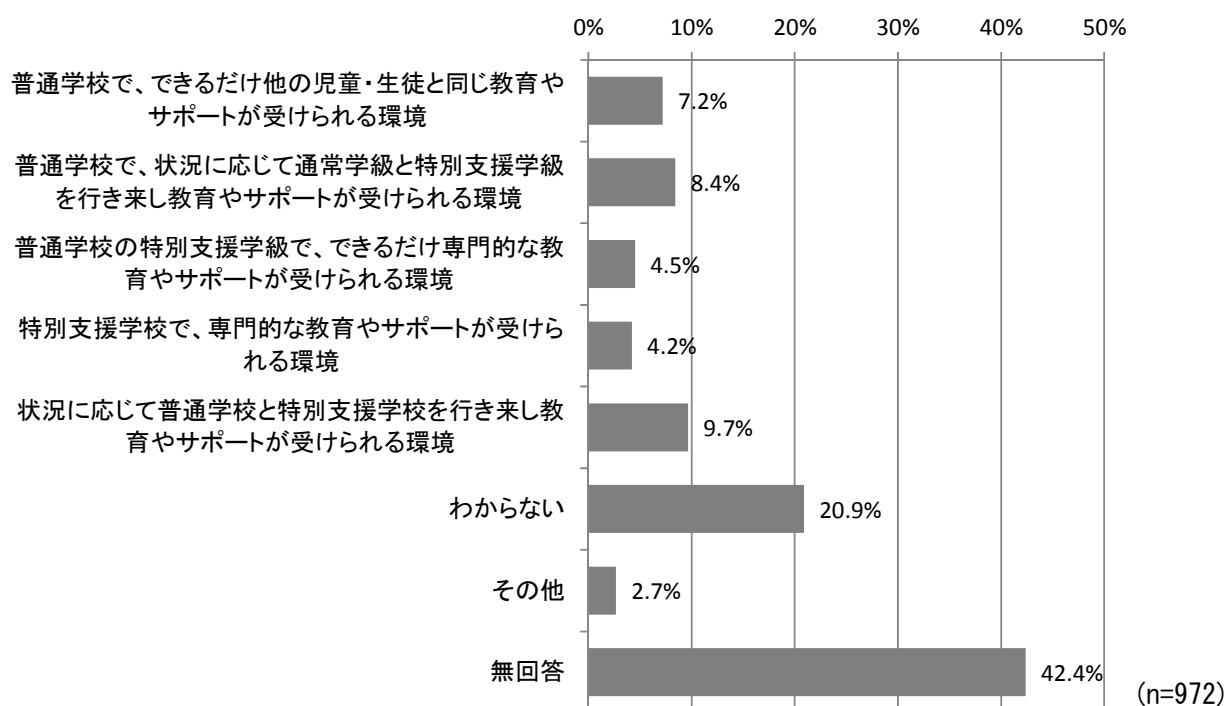


### [教育・育成]

障害者が学ぶときに望ましいと思う環境について、「状況に応じて普通学校と特別支援学校を行き来し教育やサポートが受けられる環境」や「普通学校で、できるだけ他の児童・生徒と同じ教育やサポートが受けられる環境」が他の項目と比べて割合が高くなっています。

また、通園・通学者のうち、ほとんどが希望の学校に「通えている」と回答しています。

#### ■障害のある人が学ぶときに望ましいと思う環境について



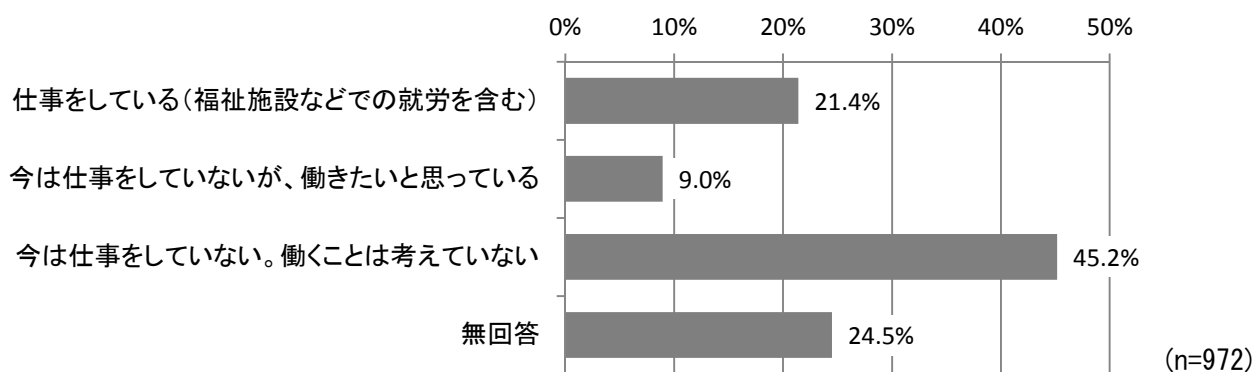
## [雇用・就業]

現在の仕事の状況については、「仕事をしている（福祉施設などでの就労を含む）」の割合が約21%で、「今は仕事をしていないが、働きたいと思っている」を合わせると約30%となっています。年代が若くなるに連れて「仕事をしている（福祉施設などでの就労を含む）」の割合は高くなっており、若年層では約50%となっています。

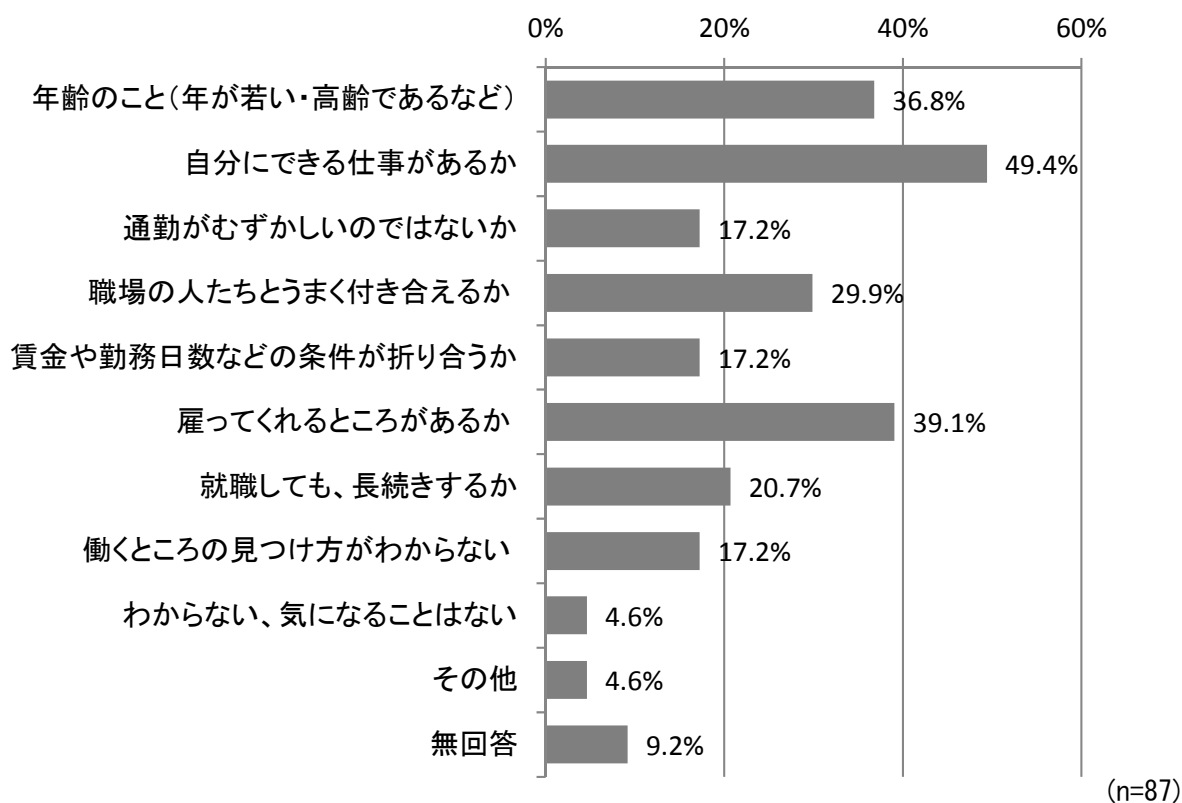
「今は仕事をしていない。働くことは考えていない」と答えた方については65歳以上が72%、40歳から64歳で23%で40歳以上が全体の95%を占めています。

今後働きたいと思っている人の気になること・不安なことについては、「自分にできる仕事があるか」や、「雇ってくれるところがあるか」、「年齢のこと（年が若い・高齢であるなど）」が他の項目と比べて高い割合となっています。

### ■今の仕事の状況について



### ■これから働く上で、気になる事や不安なことについて

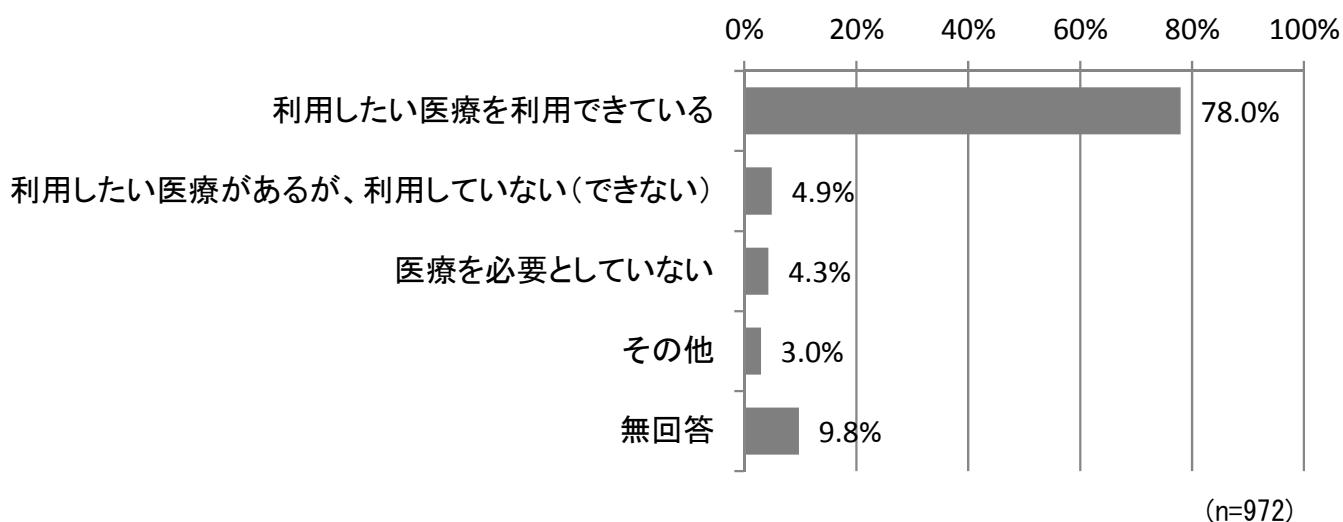


## [保健・医療]

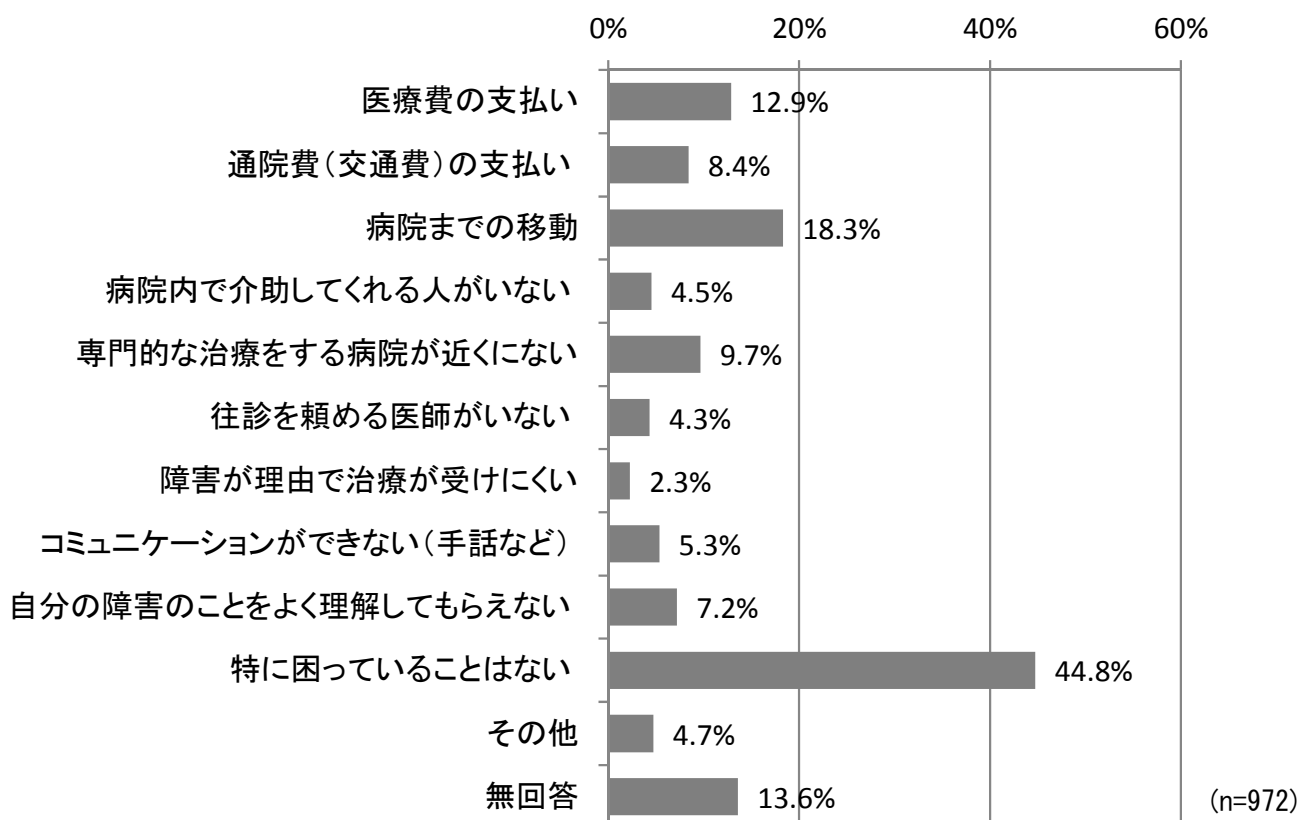
医療の利用状況については、約80%が「利用したい医療を利用できている」と回答しています。

医療を受けるうえで困っていることについては、約45%が「特に困っていることはない」と回答していますが、他の項目では「病院までの移動」、「医療費の支払い」がやや高い割合となっています。

### ■医療の利用状況について



### ■医療を受けるうえで困っていることについて

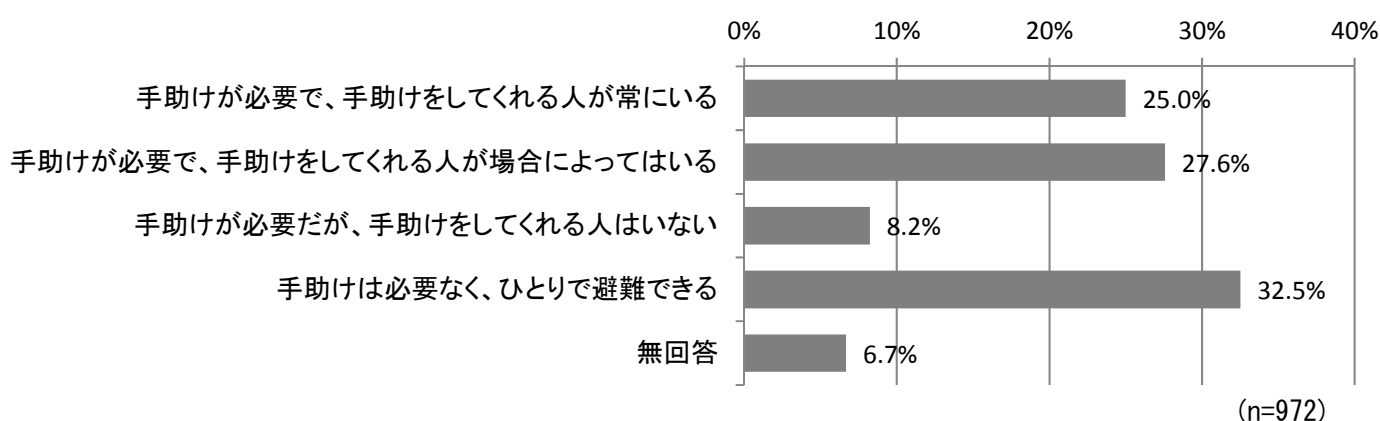


## [災害]

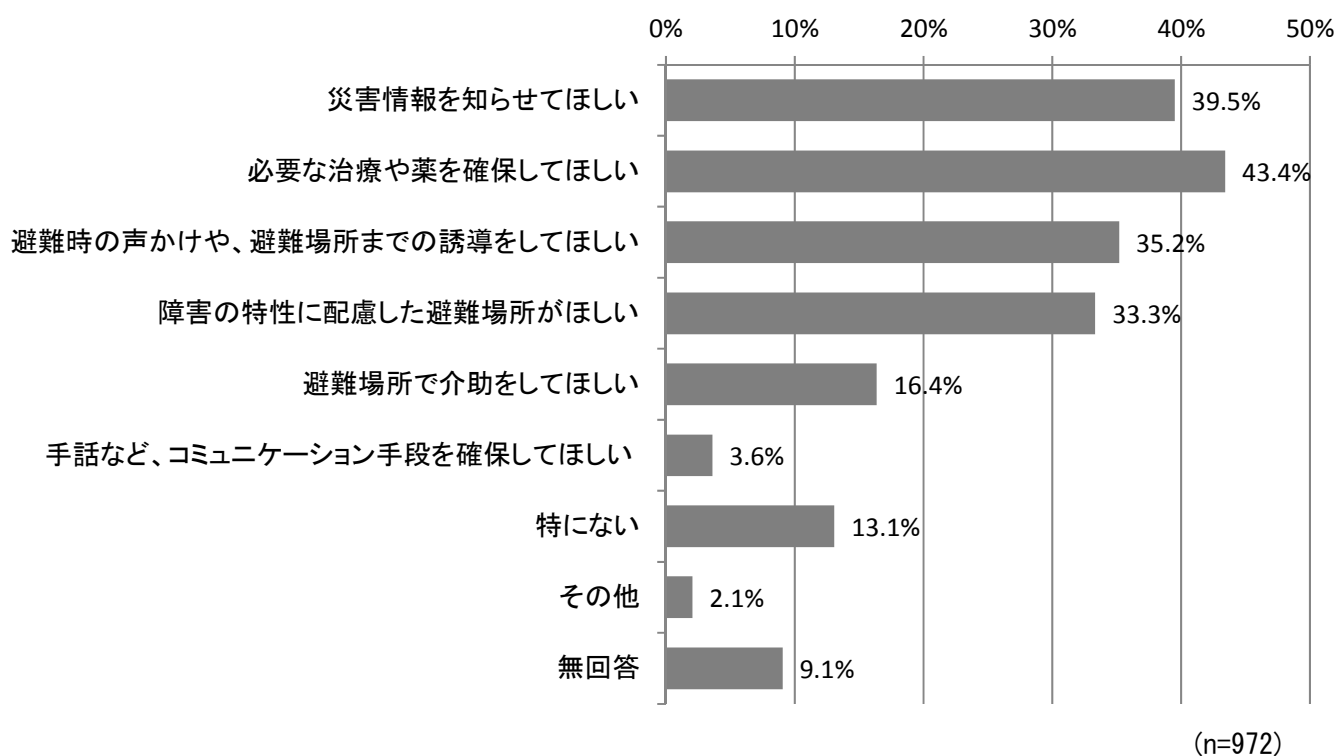
災害で避難するときの手助けについては、「手助けは必要なく、ひとりで避難できる」の割合が約33%となっています。また、「手助けが必要だが、手助けをしてくれる人はいない」の割合は約8%となっています。

災害時のニーズについては、「必要な治療や薬の確保」、「避難情報の周知」、「避難時の声かけや、避難場所までの誘導」や「障害の特性に配慮した避難場所ほしい」が他の項目と比べて高い割合になっています。

### ■災害で避難する時、手助けについて



### ■災害にあった時にしてほしいことについて

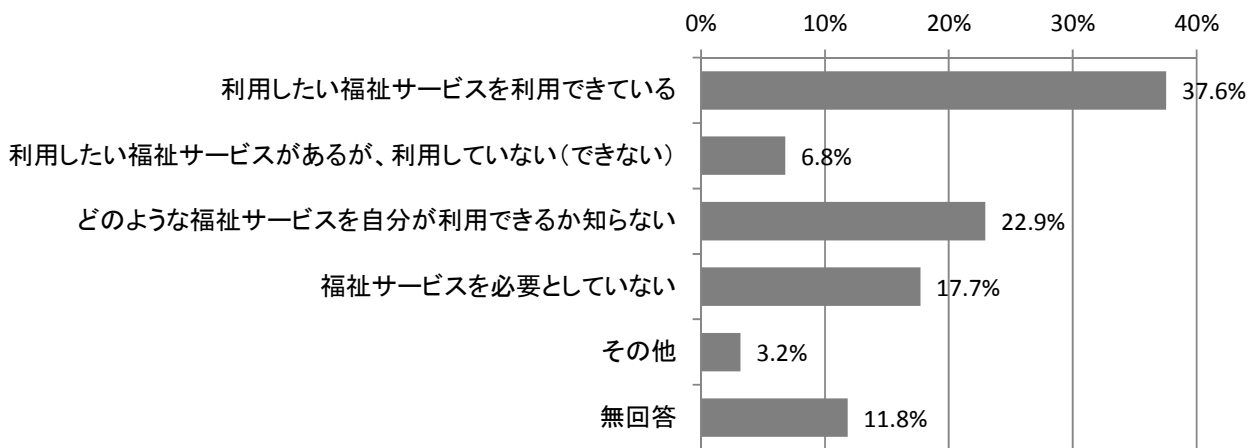


### [福祉サービスや制度]

福祉サービスの利用状況については、「利用したい福祉サービスを利用できている」が約38%である一方、「どのような福祉サービスを自分が利用できるか知らない」が約23%となっており、さらなる福祉サービスの周知が望まれます。また、「利用したい福祉サービスがあるが、利用していない(できない)」が約7%となっています。

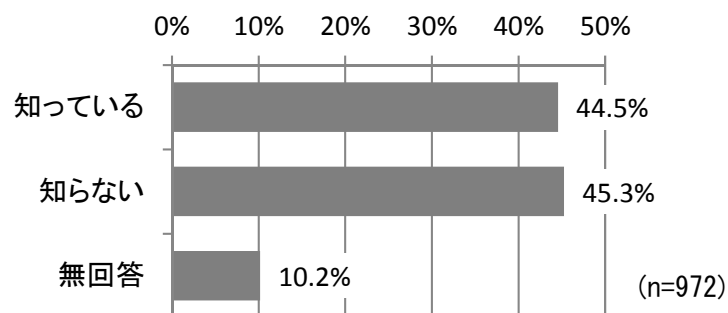
成年後見制度については「知っている」、「知らない」とともに約45%となっています。

#### ■福祉サービスの利用状況について



(n=972)

#### ■成年後見制度について



(n=972)



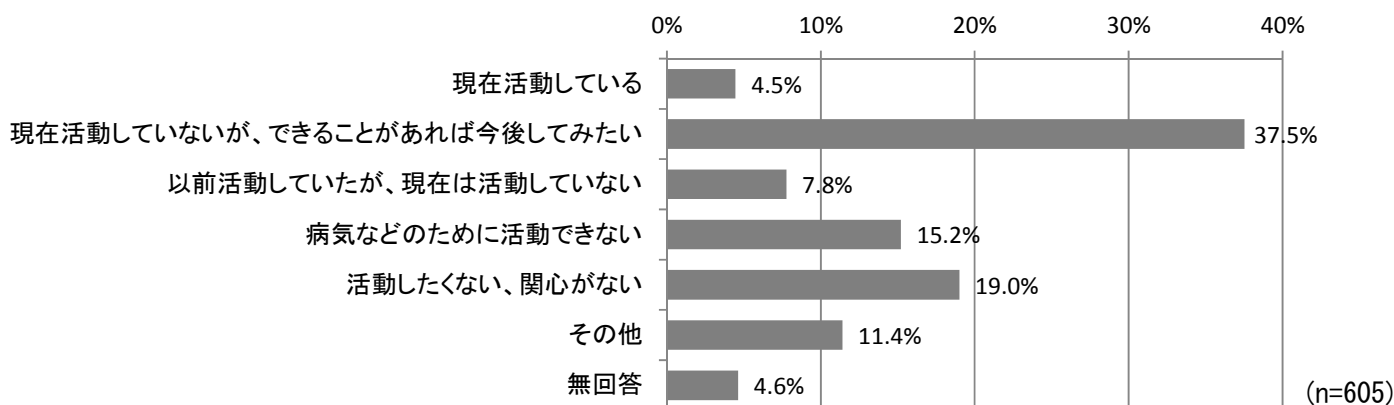
## ②一般

### [障害福祉への関心]

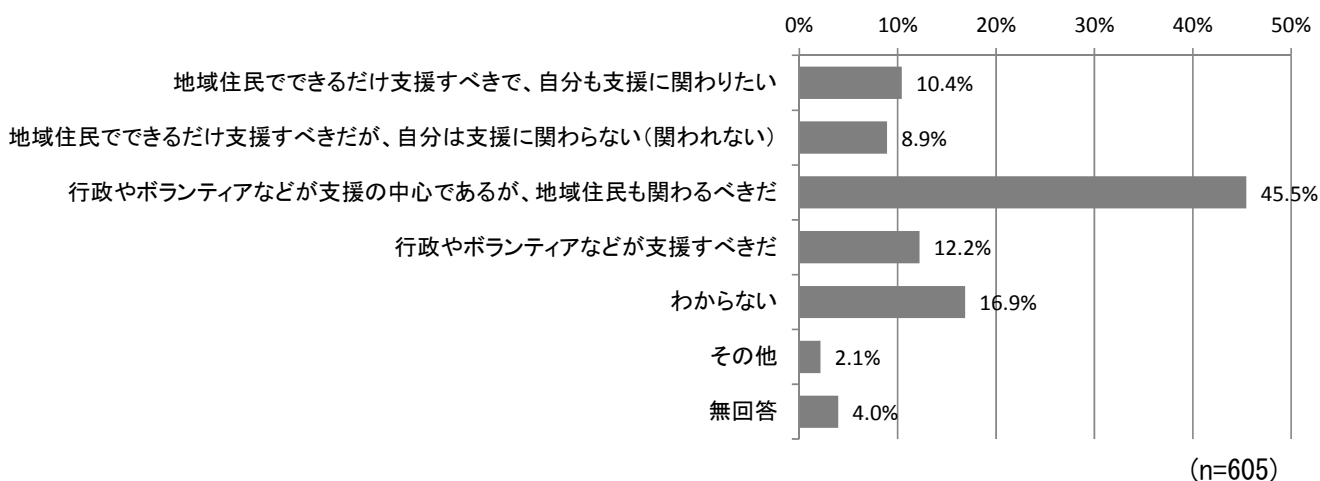
障害者への支援や交流への関心については、「関心がある」及び「どちらかといえ  
ば関心がある」を合わせると、約 65%となっています。一方、福祉関係のボランテ  
ィア活動の経験等については、「現在活動している」が約 4%で、「現在活動していな  
いが、できることがあれば今後してみたい」を合わせると 42%となるものの、市民  
の意識と行動の間に差があることが示されています。

障害者に対する支援体制については、「行政やボランティアなどが支援の中心であ  
るが、地域住民も関わるべきだ」が約 45%と最も割合が高く、「行政やボランティア  
などが支援すべきだ」を合わせると約 58%となっています。

### ■福祉関係のボランティア活動について



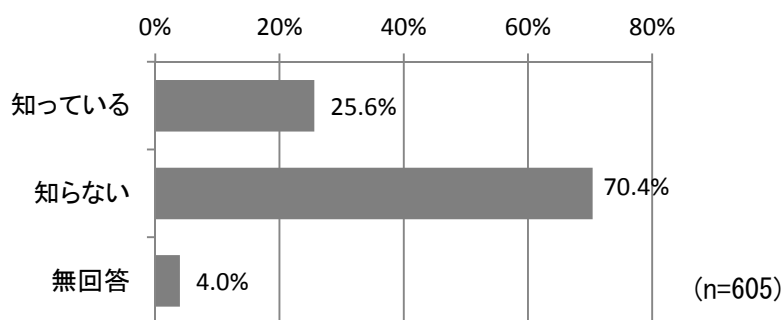
### ■障害者に対する支援体制について



### [差別・偏見]

障害者差別解消法が施行されたことについては「知っている」が約 26%、「知らない」が約 70%となっています。障害者への差別・偏見については、「以前よりも改善されていると思う」が約 40%と最も高い割合であった一方、「以前と変わらないと思う」が約 37%となっており、ひきつづき差別・偏見解消に向けた取組が望まれます。

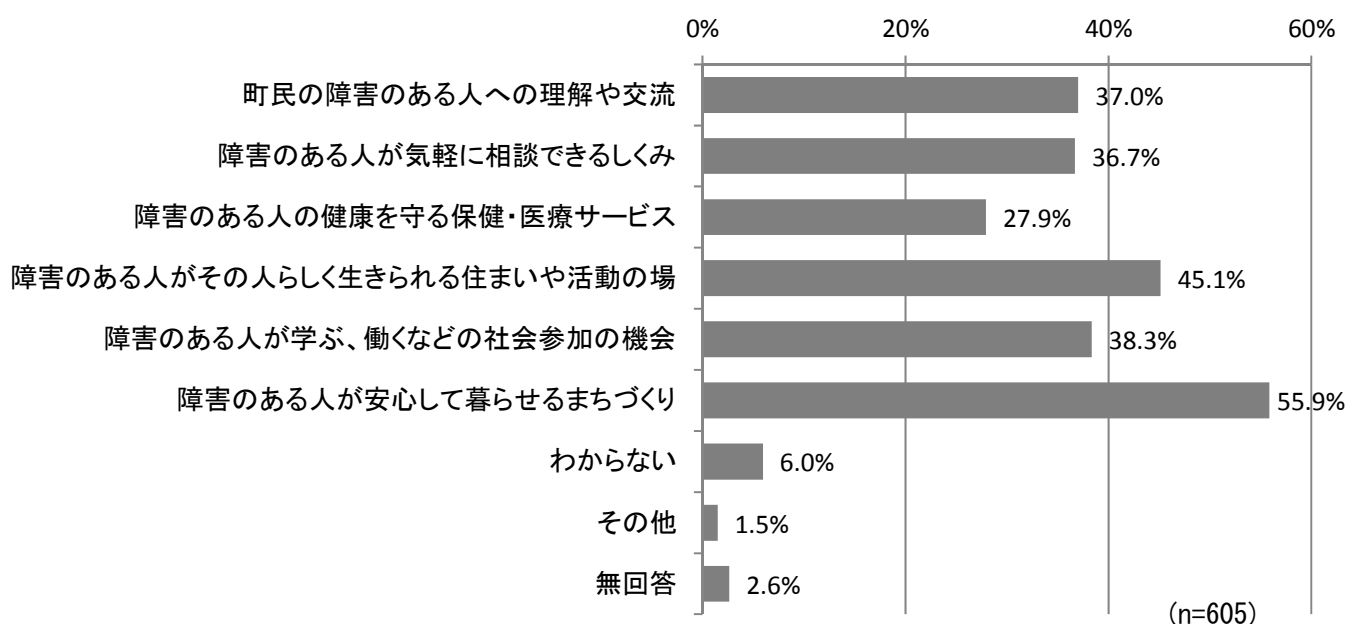
#### ■障害者差別解消法について



### [行政の障害者福祉への取組]

町の障害福祉施策へのニーズについては、「障害のある人が安心して暮らせるまちづくり」が、障害者手帳所持者アンケート結果と同様に最も高い割合となっているほか、「障害のある人がその人らしく生きられる住まいや活動の場」、「障害のある人が学ぶ、働くなどの社会参加の機会」が他の項目と比べて高い割合になっています。

#### ■町の障害福祉施策へのニーズについて



[自由意見] (一部抜粋)

【外出について】

- どこかに外出したくても家族が出かけている時は交通手段が無いため、外出できない。また、福祉(サポート)券があるが、前もって予約しておかないと利用出来ないときもあり、だんだん外出の回数が減ってしまう。

【就労について】

- 障害を抱えていても、安心して働ける場所を見つけてほしい。
- 事業所での障害者雇用を促進する運動がまず必要。
- 小川町の和紙・建具・有機野菜という素晴らしいものがあるのだから、それに関する仕事を子どもたちに与えてやってもらいたい。

【障害に対する理解について】

- 有料でも良いので精神疾患を理解する&克服するようなセミナーを開催してほしい。
- 障害がありながらも毎日元気に精一杯楽しく過ごしている姿を見ていると家族もエネルギーをもらう事があります。
- 内部障害は見た目だと分かりにくいいため、まわりが理解するまで時間がかかる。

【相談について】

- 困った時どこに相談したら良いか分からない。
- 障害をかかえている本人がどうしたいかが大切だと思います。我々がこうあるべきという考えではなく、障害をかかえている人が思っていることを聞いてあげてそれを実現していく世の中であってほしいです。

【今後の生活について】

- 今後親の私達が年老いた時にどうすればよいのか不安があります。グループホーム等が増えると良いと思います。
- 難病を患っていて、その生活のつらさや不自由さが、なかなか理解されないのので、一人一人違う生活に配慮した、支援、サービスをしてほしい。

【保健・医療について】

- 発達障害について人とのかわりが上手に出来ないのでも上手にコミュニケーションできるようにしたいが相談できる場所がないので、相談できる場所を作ってほしい。
- 主人と二人ともに高齢のため、手助けが必要なときどうなるか不安です。
- 自分の患っている病気の情報がもっと知りたい。

#### 4 障害者計画・障害福祉計画等にかかる懇話会の概要

##### (1) 懇話会の目的

障害のある児童等の保護者、障害のある人及び各ボランティア等団体関係者を対象に、各テーマについて自由に意見をいただき、計画策定の基礎資料とするために実施しました。

##### (2) 出席者

本懇話会は、2部制とし、第1部は障害のある児童等の保護者を対象に実施し、第2部は障害者団体の代表者、ボランティア団体関係者を対象に、それぞれご意見を伺いました。

##### (3) 実施概要

日時：平成29年8月29日（火）

第1部：午前10時～12時

出席者：障害のある児童等の保護者13名、町職員（策定検討委員）9名、事務局（健康福祉課）5名。

第2部：午後3時～5時

出席者：各障害者団体代表（当事者）11名、ボランティア団体等代表者3名、町職員（策定検討委員）10名、事務局（健康福祉課）5名

##### (4) 懇話会での意見（一部抜粋）

###### 【公共交通について】

- ・子供なので公共交通には親と一緒に乗れない。高校になっても乗れないと思う。タクシー券があるが子供ひとりでは乗れないので親が自家用車で送迎している。タクシー券ではなくガソリン代の補助をして欲しい。
- ・デマンドについては呼ぶ方法は電話以外でもできるように考えてもらいたい。FAX、メールなどを検討して欲しい。

###### 【災害時について】

- ・避難所でその場に留まっているということが難しい。好き嫌いがあるため食事が心配。窮屈な環境は難しい。障害のある人だけで集まれるような場所があったらいいと思う。他の人から「あの子は…、うるさい」など白い目でみられないように。障害関係の知っている人が一緒の方が安心する。
- ・どこに避難するか親もわかっていない。被災している町中を歩くのは大変。支援してくれる人が近くにいれば。
- ・普通の人でも災害時はパニックになってしまうので障害のある人により配慮が必要。また、周りの人の理解も必要。

- ・サークルでも災害の時ろう者の方をどう支援するか話し合っている。災害の時どのように情報を得られるのか。ボランティア団体だけでやるのではなく行政の方とも一緒に考えていきたい。

#### 【障害者の差別解消について】

- ・保育園ではみんなと一緒に。周りの子供たちはわかってくれる。差別はその人自身を知らないから生まれると思う。子供時代一緒に過ごせば、困っている時助けてくれる、良いところをわかってくれる。知らないと「変な子」になってしまう。障害者としてではなく人として知ってもらうには子供たちからだと思う。個性として捉えてもらえたらいいと思う。
- ・差別は感じたことはないがいじめを受けたことがある。いじめの解決についてどう思っているのか。環境が居場所をあたえてくれた。差別は他の人が「かわいそう」とか上からみているからなど、障がいのある人が生きているということを認めることが大切なのではないか。その子の特性だと思うことが大切で交流する場が必要。一緒にいることが大切。

#### 【社会参加について】

- ・支援学校で頑張っていることを町の人を知る機会がない。町の中で披露できる場があったらいいと思う。福祉祭りなどいいと思う。
- ・お祭に昔は親と行っていたが、友達と行って楽しかったと言ってくれた。参加するチャンスができる行事を用意してもらいたい。参加したいと思える行事が少ない。子どもが参加することによって親が相談できる場にもなる。保護者が安心する場をつくってもらいたい。
- ・子どもが4歳なので参加できる行事が少ない。子どもであれば親がふみださないといけない。経験者との話し合いが必要。地区の人との話し合いがあれば良い。
- ・ろう者は外見からわからない。障害者とわかるような表示があればいいと言われるけれど、表示がなくても普通に生活できるのが望ましいと思う。

#### 【成長過程における支援について】

- ・小川町には建具、和紙、有機野菜などいいものがたくさんある。そういうものに関係したところに就職できるといいと思う。町でもそういう仕事に携われる機会をつくってもらいたい。後継者にはなれないが仕事に携わる人数は増やせるし、できる仕事があると思う。働く場を与えてもらいたい。
- ・横のつながりが欲しい。学校を超えての集まりがない。

### 【地域での生活について】

- 重度の人が入れるグループホームをつくってもらいたい。重度の人を入れてくれる施設は少ない。
- 地域で生活したいと思うが、非常に壁があり老後を考えると心配になる。自分が運転できなくなった時どうすればいいか。電話はできない。コミュニケーション、交通に心配がある。福祉サービスを使おうと思った時、利用方法についての連絡どうすれば…ほとんどが電話。聞こえないろうの高齢者の場合特に心配。
- 遠くの施設は行けない。町内につくってほしい。

### 【その他】

- 障害者の団体の会員が少なくなってしまう、一人でいくつもの地区をまわらなくてはいけない。高齢化が進んでいるので若返りができないかと思っている。



by. PIMATTY ZOO  
事業所あすなろ 利用者様